

広報ほろきは令和5年5月号から穴あけを廃止しています。
穴あけをつくる際には、「●」マーク、「▼」マークを目印に
パンチなど穴を開けていただきますようお願いいたします。

2・3階展示室

美術館
だより

Vol.182

私風景：植田正治のまなざし

2024年3月1日(金) - 6月9日(日)

今回の展覧会タイトル「私風景」は、〈風景の光景〉と呼ばれるシリーズ(1979-83年)の一部を、植田がカメラ雑誌に発表した際に使用した言葉です。その誌上で植田は次のように記しています。「写真にはテーマが大切、といわれる。私にとっては、“日常”そのものがテーマだからことさら気負わなくても、これでいいのだ、とおもっている。」植田が風景を撮影する際に、なにも風光明媚な場所^{めいび}にこだわったわけでも、ドラマティックな瞬間をねらったわけでもないことがよくわかります。何気ない瞬間、“日常”を個人的な「まなざし」で淡々と捉えたのが植田の「風景写真」なのでしょう。そして、このことは、1970年代から80年代にかけての植田の作品に限ったことではなく、戦前からの作品に共通して見られる植田の普遍的特徴です。ただ、1960年代に撮影された〈松江〉のシリーズは、植田の風景の中でも少し異質に感じられるかもしれません。出版の企画が先行していたこともあるかもしれませんが、「古きよきもの」を記録する、描き出すといった意識が強い作品群のためでしょう。しかしながら、その中にも植田のユニークな視点、構図がところどころに感じられ、意欲的なシリーズとなっています。

今回の展覧会では、今まであまり展示される機会の少なかった1970年代のカラーの風景写真をはじめ、シリーズ〈風景の光景〉、戦前から70年代までの多彩な風景作品、そして、シリーズ〈松江〉を紹介いたします。植田正治の風景写真の魅力をあらためて感じとっていただけることでしょう。



シリーズ〈風景の光景〉より 1979-83年

【同時開催】1階D展示室 コレクション紹介展示

植田正治物語 - 写真するボク -

植田正治の生涯にわたる写真活動の軌跡を紹介しています。ぜひご覧ください。

問い合わせ先

伯耆町立植田正治写真美術館 TEL:0859-39-8000
■メール: bijyutsukan@houki-town.jp ■ホームページ: <https://www.houki-town.jp/ueda/>
■開館時間/10:00~17:00 (最終入館は16:30) ■休館日/火曜日 (祝日の場合は翌日) ※4月30日(火)は開館

町民の方は入館無料です(ご来館の際は免許証など住所のわかる物を提示してください)。